

## 第5章 外部連携

### 5.1 外部連携

令和2年度から指定された「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の3年間ではふたば未来学園と双葉郡による広域協働コンソーシアムを構築してきた。双葉郡教育復興ビジョン推進協議会や福島相双復興推進機構、福島イノベーション・コースト構想推進機構など双葉郡8町村との機関との協働によって、演劇プログラムや地域課題解決型探究の加速化を生み出した。特に双葉郡の8町村すべての地域の方々との協働できたことは、より充実した双葉郡地域把握フィールドワークや演劇プログラムづくりにつながっている。また、ここでできた協働関係は2年次以降の探究学習にもつながっていった。

今年度より WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に移行し、イノベティブでグローバルな人材の育成のために、新たなコンソーシアムを構築する必要がある。より高度な探究を進めるために、これまでの地域との協働機関に他に、今年度は新たに大学などの事業協働機関との連携を強化した。代表的な事業協働機関についてまとめる。また、各年次における外部連携実績リストについては、次項以降に掲載する。

#### ① 東北大学

東北大学とは令和5年3月に福島県教育委員会と東北大学高度教養教育・学生支援機構との間で教育連携協定を締結した。本協定により、WWL事業拠点校（本校）と県内事業連携校の生徒が東北大学の生徒が東北大学の講座を履修できるアドバンスト・プレースメント（先取り履修＝AP）を実現するための協議が進められることとなった。

令和5年度は大学の先取り履修を整えるために、単位ではなくオープンバッジ（獲得した知識やスキルを証明する国際技術標準規格のデジタル証明書）の付与という形で「学問論演習」というゼミ形式の授業に本校生徒5名が参加した。10月の後期の授業で全15回の講義では「グループディスカッションとアイデア整理のスキルアップ講座」を受講した。

また、東北大学オープンオンライン教育開発推進センター（MOOC）のオンライン講座の推進など今年度は東北大学との連携が一気に進んだ。未来創造探究においては、理系分野の探究を中心に東北大学の教授から直接アドバイスを頂いたり、製作物についての分析依頼を行うなど、個別の探究における連携する事例も作ることができた。

次年度については、学問論演習の受講講座を更に多くの生徒に参加してほしいと考えている。また、今年度から継続して協議している内容として、論文作成能力や論理的思考を育成するためのアカデミック・ライティング講座の開設を進めていきたい。

#### ② 早稲田大学

早稲田大学とは早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンターとの連携を継続している。毎年ふくしま学（楽）会を年2回開催している他、昨年度からはより地域住民と本校生と大学が協働の学びの場を作るために1F地域塾を年3～4回のペースで開催してきた。詳細については5.3を参照のこと。

#### ③ 福島大学

福島大学とは地元の国立大学として未来創造探究における指導助言をいただく外、未来創造探究生徒研究発表会での審査員を毎年お願いしている。今年

度は2年次の探究学習を進化させるために「専門知識講義」の授業で福島大学の先生から講義を頂いたり、生徒の発表を聞き「壁打ち」をしていただくことで生徒の探究をより磨きをかけていただいた。

令和6年3月23日（土）には福島大学「地域×データ」実践教育推進室主催の公開シンポジウム『次世代がつなぐ“あの日”と“未来”～広島・神戸・福島「記憶の継承」』にて本校生徒と教員が発表する予定である。

#### ④ 福島国際研究教育機構（F-REI）

福島を始め東北の復興を実現するために令和5年度に開設されたF-REIとは令和5年4月の設立記念シンポジウムで本校生徒が代表発表およびトークセッションを行った。また、代表発表を行った大学院生と社会人も本校の卒業生である。

9月にはF-REIの山崎光悦理事長をお招きして2年次生を対象にトップセミナーを開催した。また、令和6年3月には大学生・高校生を対象とした座談会に本校生7名が参加予定である。

WWL事業における長期目標の中で、「F-REIをはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出に繋げる。将来地域に戻った人材が、福島国際研究教育機構をはじめとしたイノベーション・コースト構想推進の中核を担い、内発的人材と世界の研究者の協働による双葉郡復興を実現していくことを目指す」とあり、今後もF-REIとは連携を進めていくが、特にグローバルに活躍する企業や研究の最前線などの分野で連携が進められると良いと考えている。

#### ⑤ その他

「グローバル型」事業で協働してきた双葉郡教育復興ビジョン推進協議会や福島相双復興推進機構、福島イノベーション・コースト構想推進機構などは引き続き連携を進める。また、NPO法人カタリバ双葉未来ラボとの連携については、5.4を参照のこと。

5.2 外部連携実績（1年「地域創造と人間生活」お世話になった方々）

コミュニケーションWS	2023/4/12	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC	1年 地域創造と人間生活			植浦菜保子	NPO法人PAVLIC	
		河野悟	NPO法人PAVLIC					森内美由紀	NPO法人PAVLIC
		有吉宣人	NPO法人PAVLIC					村田牧子	NPO法人PAVLIC
		北村耕治	NPO法人PAVLIC					山本雅幸	NPO法人PAVLIC
		宮崎悠里	NPO法人PAVLIC			演劇WS	2023/7/18	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		植浦菜保子	NPO法人PAVLIC					河野悟	NPO法人PAVLIC
演劇WS	2023/5/2	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC					北村耕治	NPO法人PAVLIC
		河野悟	NPO法人PAVLIC					有吉宣人	NPO法人PAVLIC
		北村耕治	NPO法人PAVLIC					宮崎悠里	NPO法人PAVLIC
		宮崎悠里	NPO法人PAVLIC					植浦菜保子	NPO法人PAVLIC
		植浦菜保子	NPO法人PAVLIC				森内美由紀	NPO法人PAVLIC	
		森内美由紀	NPO法人PAVLIC				村田牧子	NPO法人PAVLIC	
		山本雅幸	NPO法人PAVLIC				山本雅幸	NPO法人PAVLIC	
		金恵鈴	NPO法人PAVLIC		演劇WS・成果発表会	2023/7/24.25	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC	
		館そらみ	NPO法人PAVLIC				北村耕治	NPO法人PAVLIC	
演劇WS	2023/5/10	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC				宮崎悠里	NPO法人PAVLIC	
		河野悟	NPO法人PAVLIC				植浦菜保子	NPO法人PAVLIC	
		北村耕治	NPO法人PAVLIC				村田牧子	NPO法人PAVLIC	
		有吉宣人	NPO法人PAVLIC				山本雅幸	NPO法人PAVLIC	
		宮崎悠里	NPO法人PAVLIC				武井希未	NPO法人PAVLIC	
		植浦菜保子	NPO法人PAVLIC		哲学対話	2023/5/23	神戸和佳子	長野県立大学	
哲学対話	2023/5/23	神戸和佳子	長野県立大学				平田オリザ	芸術文化観光専門職大学	
		西山溪	開智国際大学				大倉英揮	黒目写真館	
		川向思季	長野県立大学		成果発表会	2023/7/25	明石重周	J-ヴィレッジ	
		麻生修司	都留分科大学				田村善孝	東京電力福島復興本社	
		竹岡香帆	都留分科大学				青木裕介	ぶらっとあっと	
		大平桃花	都留分科大学				松本佳充	双葉高校元教員	
演劇WS	2023/5/30	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC				中井俊郎	NARREC	
		河野悟	NPO法人PAVLIC				青木淑子	富岡町3.11を語る会	
		北村耕治	NPO法人PAVLIC				滝沢月子	富岡中央医院	
		宮崎悠里	NPO法人PAVLIC				下枝浩徳	葛力創造舎	
		植浦菜保子	NPO法人PAVLIC				平山勉	ふたばいんふぉ	
		森内美由紀	NPO法人PAVLIC				神崎克訓	鹿島建設	
		山本雅幸	NPO法人PAVLIC				鈴木謙太郎	木戸川漁業協同組合	
「演劇を通して地域の課題を知る」インタビュー	2023/6/6	小泉良空	プロジェクトふたば				佐藤亜紀	HAMADOORI13	
		松本佳充	双葉高校元教員				柴口正武	元広野中学校	
		志賀風夏	天山文庫		哲学対話	2023/8/29	神戸和佳子	長野県立大学	
		青木淑子	富岡町3.11を語る会				西山溪	開智国際大学	
		佐藤亜紀	HAMADOORI13				川向思季	長野県立大学	
		鈴木謙太郎	木戸川漁業協同組合				麻生修司	都留分科大学	
		平山勉	ふたばいんふぉ				竹岡香帆	都留分科大学	
		明石重周	J-ヴィレッジ				大平桃花	都留分科大学	
		菅野孝明	まちづくりなみえ		哲学対話	2023/9/12	神戸和佳子	長野県立大学	
		青木裕介	ぶらっとあっと				西山溪	開智国際大学	
		滝沢月子	富岡中央医院		ヒューマンライブラリー	2023/10/31	日野涼音	群馬県立女子大学	
		下枝浩徳	葛力創造舎				青木裕介	ぶらっとあっと	
		木村紀夫	大熊未来塾				谷田川佐和	株式会社Orai	
「演劇を通して地域の課題を知る」フィールドワーク	2023/7/4	小泉良空	プロジェクトふたば				田村稜真	福島大学 大学生	
		松本佳充	双葉高校元教員				関城夢	福島大学 大学生	
		志賀風夏	天山文庫				高橋恵子	Rodriguez	
		田村善孝	東京電力復興本社				鈴木恵子	語り部	
		増子啓信	大熊学び舎ゆめの森				中井俊郎	日本原子力研究開発機構	
		鈴木謙太郎	木戸川漁業協同組合				小松理彦	ヘキレキ舎	
		平山勉	ふたばいんふぉ				江尻浩二郎	東日本国際大学	
		明石重周	J-ヴィレッジ				高橋大就	一般社団法人「東の食の会」	
		菅野孝明	まちづくりなみえ				猪狩僚	いわき市役所	
		神崎克訓	まちづくりなみえ				平澤俊輔	いわきFC	
		滝沢月子	富岡中央医院				横須賀直生	おかしなお菓子屋さんLiebe	
		下枝浩徳	葛力創造舎				小林 奨	YONOMORI DENIM	
		磯辺吉彦	ぶらっとあっと		未来創造探究ブレ発表会	2024/2/6	高木市之助	T.I.G.D.	
		中井俊郎	NARREC				横須賀直生	Liebe!	
		志賀秀陽	大熊未来塾				山根麻衣子	ローカルライター	
		田中秀昭	鹿島建設				中井俊郎	NARREC	
		青木裕介	ぶらっとあっと				平澤俊輔	いわきFC	
		佐藤亜紀	HAMADOORI13				青木裕介	ぶらっとあっと	
		青木淑子	富岡町3.11を語る会				北村耕治	NPO法人PAVLIC	
		柴口正武	元広野中学校				有吉宣人	NPO法人PAVLIC	
演劇WS	2023/7/11	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC				宮崎悠里	NPO法人PAVLIC	
		河野悟	NPO法人PAVLIC				植浦菜保子	NPO法人PAVLIC	
		北村耕治	NPO法人PAVLIC				森内美由紀	NPO法人PAVLIC	
		有吉宣人	NPO法人PAVLIC				村田牧子	NPO法人PAVLIC	
		宮崎悠里	NPO法人PAVLIC				山本雅幸	NPO法人PAVLIC	
		植浦菜保子	NPO法人PAVLIC				宮崎悠里	NPO法人PAVLIC	
		森内美由紀	NPO法人PAVLIC				植浦菜保子	NPO法人PAVLIC	
		村田牧子	NPO法人PAVLIC				森内美由紀	NPO法人PAVLIC	
		山本雅幸	NPO法人PAVLIC				村田牧子	NPO法人PAVLIC	
							山本雅幸	NPO法人PAVLIC	

## 2年「未来創造探究」お世話になった方々

探究ゼミ	日付	氏名	所属、役職	
共生社会探究ゼミ	2023.10.3	川崎興太	福島大学教授	1
共生社会探究ゼミ	2023.12.5	猪狩僚	いわき市役所	2
共生社会探究ゼミ			広野児童館 館長	3
共生社会探究ゼミ			広野こども園 園長	4
共生社会探究ゼミ		佐藤教頭	教頭先生(広野小学校)	5
共生社会探究ゼミ			広野小学校3.4年生の先生	6
共生社会探究ゼミ			広野小学校3.4年生	7
共生社会探究ゼミ		吉田泰子	陽なたぼっこ 店主	8
共生社会探究ゼミ		谷川攻一	ふたば医療センター附属病院 医院長	9
共生社会探究ゼミ		水口公美	ふたば未来学園高等学校 栄養教諭	10
共生社会探究ゼミ		中澤真弓	日本体育大学 准教授	11
共生社会探究ゼミ		八嶋美加	合同会社木の実 多機能型重心児デイサービスどんぐり	12
共生社会探究ゼミ		小熊真奈美	富岡支援学校	13
共生社会探究ゼミ		西山将弘	はなのころ	14
共生社会探究ゼミ		太田毅	いわきオートキャンプ場DAN〜暖〜	15
共生社会探究ゼミ		下釜幸恵	あおば児童クラブ	16
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.8.17	安島 大司	株式会社マルト商事	17
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.8.17	仁井田 務	株式会社マルト商事	18
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.6	徳田 辰吾	ネクサスファームおおくま 取締役兼工場長	19
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.6	渡部 高行	ネクサスファームおおくま 管理部管理課 課長 生産部販売管理課	20
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.6	安島 大司	株式会社マルト商事	21
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.6	仁井田 務	株式会社マルト商事	22
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.31	仁井田 務	株式会社マルト商事	23
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.10.31	見城 周平	株式会社マルト商事	24
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.12.5	仁井田 務	株式会社マルト商事	25
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.9.24	木下 麻美	がらがらどん	26
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.12.16	木下 麻美	がらがらどん	27
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.11.25	谷田川 佐和	株式会社Oriai	28
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.12.16-18	谷田川 佐和	株式会社Oriai	29
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.1.6	谷田川 佐和	株式会社Oriai	30
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.11.3	磯辺 義彦	NPO法人広野町わいわいプロジェクト	31
地域社会・経済産業探究ゼミ	2023.6.1	徳田 辰吾	ネクサスファームおおくま 取締役兼工場長	32
人間科学・文化・芸術探究ゼミ	2023.12.12	花見 憲一	福島県浜尻児童相談所	33
人間科学・文化・芸術探究ゼミ	2023.7.18	エミリ	大熊町住人・農家	34
人間科学・文化・芸術探究ゼミ	2023.7.5	山田美香	福島大学地域未来デザインセンター	35
人間科学・文化・芸術探究ゼミ	2023.12.26	窪田文子	医療創生大学	36
自然科学・地球環境探究ゼミ		佐伯さん	大熊町役場	37
自然科学・地球環境探究ゼミ		鈴木さん	大熊町役場	38
自然科学・地球環境探究ゼミ		渡邊 優翔	Ichido株式会社	39
自然科学・地球環境探究ゼミ		土井 杏奈	KUMA・PREスタッフ	40
自然科学・地球環境探究ゼミ		平澤 桂	福島虫の会	41
自然科学・地球環境探究ゼミ		大越さん	はびまる福島	42
自然科学・地球環境探究ゼミ		秋山 杏由子	福島大学	43
自然科学・地球環境探究ゼミ		植松 康	東北大学	44
自然科学・地球環境探究ゼミ		山崎 剛	東北大学	45
自然科学・地球環境探究ゼミ		鈴木 正範		46
自然科学・地球環境探究ゼミ		坂本 壮	東北大学	47
自然科学・地球環境探究ゼミ		青砥 和希	NPO未来の準備室	48
スポーツ医・科学探究ゼミ	2023.9.19	西嶋尚彦	筑波大学大学院名誉教授	49
スポーツ医・科学探究ゼミ	2023.11.28	西嶋尚彦	筑波大学大学院名誉教授	50
スポーツ医・科学探究ゼミ	2023.12.12	西嶋尚彦	筑波大学大学院名誉教授	51
スポーツ医・科学探究ゼミ	2024.2.14	西嶋尚彦	筑波大学大学院名誉教授	52
				53
				54
				55
				56
				57
				58

### 3年「未来創造探究」お世話になった方々

探究ゼミ	日付	氏名	所属、役職	
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回	谷津田陽一	双葉町結ぶ会	1
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回	大島遊亀慶	双葉町結ぶ会	2
原子力防災探究ゼミ		猪狩幸子	一般社団法人富岡町観光協会	3
原子力防災探究ゼミ			とみおかアーカイブミュージアム	4
原子力防災探究ゼミ			富岡町商工会	5
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回	加村めぐみ	双葉町教育委員会生涯学習課	6
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回	菅原さん	双葉町教育委員会総務課	7
原子力防災探究ゼミ	2023.7.15	高倉洋尚	初發神社宮司	8
原子力防災探究ゼミ	複数回	山根辰洋	双葉町会議員	9
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回		双葉町商工会	10
原子力防災探究ゼミ	7月以降複数回	谷津田敬子 他	女宝財踊保存会	11
原子力防災探究ゼミ			豚井専門店 豚吉	12
原子力防災探究ゼミ			手打ち中華そば白玉家	13
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	昨年度から継続	野地雄太	株式会社Beyond Lab	14
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	昨年度から継続	齋藤裕喜	YONOMORI DENIM	15
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	昨年度から継続	小林奨	YONOMORI DENIM	16
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	山澤亮治	株式会社ヤマサワプレス	17
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回		富岡町役場	18
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回		株式会社大和田測量設計	19
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	小島和美	Caféふう	20
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	川瀬吏恵	福島県石川町地域おこし協力隊・高校魅力化コーディネーター	21
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	深澤諒	結のはじまり	22
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2023.06.17	日野涼音	認定NPO法人底上げ	23
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2023.06.17	山根 辰洋	一般社団法人双葉郡観光研究協会	24
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2023.06.17	丸山菜々子	読売新聞	25
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2023.08	渡辺義信	福島県議会議長	26
スポーツと健康探究ゼミ	2023.3.22	忽那和幸	リズムインストラクター	27
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	山本詩央理	元カタリバスタッフ	28
スポーツと健康探究ゼミ	2023.7.5	久保翔太	JFAメディカルスタッフ	29
スポーツと健康探究ゼミ	2023.3.26	半谷正彦	キャニオンワークス取締役社長	30
スポーツと健康探究ゼミ		四家卓也	Re-Birthゼネラルマネージャー	31
スポーツと健康探究ゼミ		山田みか	広野町みかんクラブ	32
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	青木さん	元気教室	33
スポーツと健康探究ゼミ	2023.1	江川賢一	東京家政大学人間栄養学部教授	34
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	山田美香	早稲田大学理工学術院	35
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	藤木泰寛		36
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	佐藤敬人		37
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	アンタルクルニア	ふたば未来学園バドミントン部スペシャルコーチ	38
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	榎本佳治	ふたば未来学園バドミントン部チームドクター	39
再生可能エネルギー探究ゼミ	2023.05.23	片岡亜優	宮城大学	40
アグリ・ビジネス探究ゼミ	複数回		株式会社マルト	41
健康と福祉探究ゼミ	昨年度から継続	齋藤裕喜	YONOMORI DENIM	42
健康と福祉探究ゼミ	昨年度から継続	小林奨	YONOMORI DENIM	43
健康と福祉探究ゼミ	複数回	山澤亮治	株式会社ヤマサワプレス	44
健康と福祉探究ゼミ	昨年度から継続	下枝浩徳	葛力創造舎	45
				46
				47
				48
				49
				50
				51
				52
				53
				54
				55
				56
				57
				58



### 5. 3 早稲田大学との協働

これまで生徒の探究学習において、地域での実践を加速できた一方で、学術的な知と接続することによる科学的概念への昇華（抽象的に思考し、転用できる概念的なものの見方・考え方の獲得）には課題があった。このことから、学知の接続を目的として2018年以降、早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンターとの連携を重ねてきた。2022年には早稲田大学環境総合研究センターとの連携協定を締結した。

#### (1) 実施内容

##### ①第6回1F地域塾

5月20日13:00-18:05、本校会場で行った。参加者は48名。事前学習として本校生徒は12日に処理水放出にまつわる2つの新聞記事を読んで問いを出していくワークを行い臨んだ。全体のマネジメントを務めたのは日本ファシリテーション協会の田坂逸朗さんである。

生徒たちが事前学習で出した問いを共有し、そのやり取りのなかでにおい立ってきた問いを田坂さんがつかまえ、紙（テーマカード）に書き並べる。参加者は「これは私の問いだ」とエンパシーを感じたカードの前に集い即席の分科会で話し合う、1人しかいなかったら1人で考える。田坂さんのコメントが興味深い。「学生さんの問いをもとに話し合いますが、学生を質問攻めにしないでください。そして答え攻めにもしないでください」。

20ぐらいの問いが出た、例として以下のようなものがあった。「情報源が同じでも見ているところが違うから対立が生まれる？」「賛成派は理屈、反対派はメンタル、それではいつまでも変わらないのか？」「怒りがあると対話ができない。どうしたら冷静になれる？」「意見は多様であっていいと思えるには？」「そもそも私は何が疑問なんだろう」。

ある生徒は「人は本当に不利益に対して冷静になれるのか？」を選び、こんなことを考え、話し合った。「不利益をこうむるのは少数派、少数派に多数派が「冷静になれ」というのも二重の暴力性がある。多数決と民主主義は違うような気がする。多数決は少数派を黙らせてしまう。民主主義は敗れた少数派にも納得感をもってもらお



うとする。お任せ民主主義が失われた30年を生んだ。当事者だから冷静になれない？ なるべきではない？」。

「対話と議論も違う。議論は結論を出す必要がある。専門家の説明は「科学の棍棒で殴られていると感じる」可能性も。対話は結論が出ない覚悟をしなければならない。他者理解が前提で、もやもやを引き受け、考え続ける必要がある。疑問と問いも違う。疑問は「あなたに答えて」。問いは「一緒に考えてもらいたいこと」。

##### ②第12回ふくしま学（楽）会

7月30日、「私たちの創造的復興とは何か?：福島復興と日本社会」とテーマに本校を会場に行われた。2年次の佐藤優香が「復興をめぐる対話の難しさ」を、鷹琉花が「廃炉をめぐる対話」をテーマに



発表するとともにパネルディスカッションに参加した。その他、双葉町の浅野撚糸、楡葉町のしろはとファームの講話を聴いた。明治大学の島田剛さんは言う「原発は第二次産業を作ることは難しかった。浅野さんとしろはとさんの取り組みは、震災以前からできなかったことへの挑戦」。また浪江町出身で福島東高校に勤務する高橋充滿先生は言う「福島県浜通り地方は「復興予算の草刈り場」ではないはず。一方で、この地域の人口が発災時より増えることはないのは明らか。人口減と経済成長を両立させるためには「生産性」を高めるしかない。しかし、この「構造」の究極が、人災である原発事故をもたらしたのではなかったか。これでは、「新しいムラ」ができるだけでしょう」。

後半はグループ討論を行った。このような話題が出た。「復興という言葉は未来志向すぎる。原子力災害は何だったのか？ 過去を見ないと。言葉によって無理やり未来志向にしていこうという感じ。原子力災害は総括がない。水俣、沖縄、広島のような教訓がない。福島の問題は核という意味では広島の的でもあるし、環境問題という意味では水俣的でもあるし、迷惑施設という意味では沖縄

的でもある。近代の諸課題の総決算のようなもの。

### ③第7回 1F地域塾

生徒事前学習では原発事故や処理水について以下のように問いを出し合った。「どうして原発の安全神話を信じてしまったのか？ 疑問を持たないのが楽だった？」「政府は「関係者の理解なしに放出しない」と言っていたが関係者って誰？ 漁業者だけ？ 理解とは？ 賛意を示すこと？ 承認すること？」「アメリカの事故炉スリーマイルは蒸発処理。環境に放出するという意味ではどれも同じだが、どれがマシか住民が決めた。福島は話し合いがなく「住民で考えた」とは言えない。処理水、決め方に問題があったから決めてからもめる。この先デブリの問題などもある。海洋放出をこれからのレッスンにしなければ」「IAEAの「正しい情報」を知らないで騒いでいる人もいる。「本当のことを知ったうえで」考えてほしい。でもそれは新たな安全神話を作ってしまうのでは？」「正しさの棍棒」を振りかざしているのでは？」「マスメディアが協力的になるべき？」「処理水」の安全神話づくりにメディアも加担するべき？ →マスメディアが権力に追従し太平洋戦争でこの国は滅んだ。それは危険。

本会は9月9日に行った。午前中には福島第一原子力発電所を見学し（高校生以上）、午後は学校で「1F廃炉の現状と1F廃炉の先を考える」をテーマに本校の高校生4名といわき市の漁師さんとの座談会を行った。1F視察には50名が参加し、本校で開催した第7回1F地域塾には69名が参加した。

午後の部ではまず塾頭の松岡先生より「間違っている・正しいを決めるのが対話の目的ではない」「廃炉には冠水工法、気中工法・充填固化工法などがある」など確認し、その後生徒4人と漁師の新妻さんが参加者の前で感想と



問い出しをした。「廃棄物をどうするの？」「情報の発信、どうするの？」「決め方・話し合い方について」「教育、場づくり、次世代の関心、面白そう、考えてみたいと思わせる仕掛けは？」。その後のグループ討論では上記の問いについて話し合いをした。

### ④第8回 1F地域塾

12月9日、午前中はバスで中間貯蔵施設を見学し、午後は富岡町の「学びの森」で座談会を行った。

大熊町の中間貯蔵工事情報センターから中間貯蔵・環境安全事業（株）（JESCO）の方が同乗して大熊町側の施設を巡る。900世帯があった「元集落」にかつて福島のあちこちに点在していた黒いフレコンバッグが集約、処理されている。高齢者施設があった高台で下車すると、北側に第一原発がみえ、想像以上に距離が近く驚いた。

その手前には貯蔵施設がピラミッドの土台のように造営されている。その土地は、相馬中村藩主とともにやってきた農家による700年の歴史を持つ田畑だったそう。先祖伝来の土地を簡単に譲れない、となかなか賛同いただけなかったそうだが、ある方が、避難先でみるフレコンバッグを見て「私が土地を譲らないことで復興を妨げているのでは」と葛藤し、譲ることをきめたという。

「学びの森」に移動し、振り返りを行う。塾頭の話のあとに、高校生・双葉町の地権者さん・環境省職員・JESCO職員による座談会があった。ここで出た話をまとめて、3つの問いを作った。

「もし自分が2015年・2045年の地権者だったら？そしてその時どうなっていたら「復興」といえる？」「最終処分は県外というけどどうやって他県の人に理解してもらえる？そもそもせっかく集めた土壌を再び全国に運ぶのはどうなの？」

「もっと自分ごとに思えるには？ 現地を知ってもらうには？」。

グループに分かれ、それらのことを話し合った。



### ⑤ 第9回1F地域塾

1月28日に予定している。

## 5.4 コラボ・スクール（双葉みらいラボ及び未来創造探究カリキュラム開発支援）

認定 NPO 法人カタリバとふたば未来学園では 2017 年より協働し、放課後の居場所・学びの場「コラボ・スクール双葉みらいラボ」の運営と、未来創造探究のカリキュラム開発に取り組んでいる。

双葉みらいラボは校内中央に位置する地域協働スペースを活用し、生徒たちが放課後に集うコミュニティスペースとなっており、学校と地域の「潮目」の場所として大学生や社会人、地域の大人たちとの「ナナメの関係」に溢れた生徒にとっての居場所・学びの場となっている。

カリキュラム開発支援では各学年に学校支援コーディネーターを配置し、先生と協働しながら「変革者たれ」の実現に資する未来創造探究のカリキュラム開発等に取り組んでいる。

### (1) 双葉みらいラボ

#### ○概要

コラボ・スクール双葉みらいラボは、ふたば未来学園内の地域協働スペース内に設置。施設内は大きく 2 つのエリアに分かれている。生徒が自学自習に取り組む協働学習ルーム、生徒が交流の場や居場所として用いる地域協働スペースである。

また施設内には「カフェふう」が併設されており、地域交流の起点として、卒業生や地域の大人などが年間延べ 500 名以上が来館し、多様な人材が生徒に関わる場所となっている。

生徒は毎日 50 名程度の生徒が来館しており、大きく 3 つの過ごし方を自身で選び、放課後の余暇を過ごしている。

#### ○「いる」場として

カタリバのスタッフがユースワーカーとして常駐することで、コミュニケーションを通して意欲喚起の土台となる「安心安全なセーフプレイス」をつかっており、生徒の日常や進路に至るまで、思春期世代特有の複雑な悩みを相談できる場となっている。

#### ○「やる」場として

探究学習（マイプロジェクト）におけるアクションの個別相談やキャリア相談、自習支援、スタッフ主催の学習イベントも行っており、生徒の主体的な学びをサポートする場としても機能している。

#### ○「つながる」場として

探究学習やキャリア支援を通じて、生徒と地域・外部人材の出会いの創出コーディネートにも積極的に取り組んでいる。また学校と地域の関わりの裾野を広げるために、年に数回、映画上映会兼交流会を地域に開いて開催するなど、地域における社会教育、生涯学習の機能も果たしている。

#### ○「第 3 の居場所」や「地域協働」の社会的意義

こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する指針（※1）」によれば、居場所の求められる背景として「地域のつながりの希薄化、少子化の進展により、こども・若者同士が遊び、育ち、学び合う機会が減少しており、『こども・若者が地域コミュニティの中で育つ』ことが困難になっている。特に過疎化が進展する地方部では、こうした傾向が一層懸念される」が挙げられる。また内閣府「子供・若者インデックスボード 4.0」（※2）では「居場所の数と

自己認識（自己肯定感、チャレンジ精神、他）の前向きさは概ね相関」とするという報告もある。

また日本財団「18 歳意識調査」（※3）によれば、自身と社会の関わりの項目について日本の若者は他 5 カ国と比べて最下位である。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ 3 割に満たず、他の国に差をつけて低い。

これらの背景を踏まえると、双葉みらいラボは、多感な時期を過ごす中高生の発達の土台となる「わたしらしくいられる場」「安心安全にチャレンジができる場」を担保しつつ、「地域や社会との関係性づくり」を通じて社会性や市民性を育むことを後押しする場といえるだろう。

来る人口減少社会において、行政サービスに頼るだけでは地域は立ち行かず、自律や自治の意識を獲得し、「自分らしい社会参加」の仕方を模索できる機会は、双葉郡における「最高学府」だからこそ重要だと認識している。

双葉郡出身のある卒業生が「原発事故の影響で今は廃墟になってしまったかつば寿司は、わたしにとっては家族との思い出の場所だった。誰かの誕生日などお祝いごとをして楽しかった思い出しかない」と語っていた。率直に言えば、地域復興は未だ道半ばだ。「避難」という形で突然関係性が断絶された地域だからこそ、そして地縁が希薄になる現代社会だからこそ、「わたし」と「地域社会」の関係性を編みなおす営みとして、持続的に場づくりに取り組んでいきたいと思う。



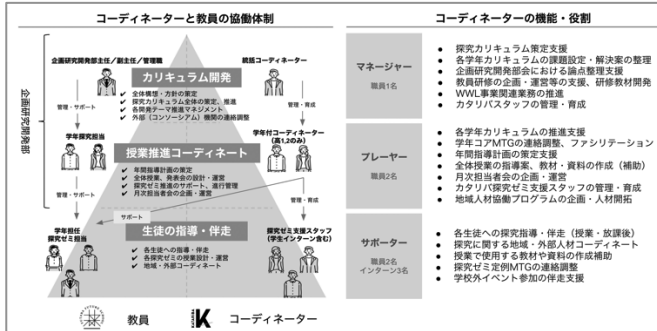
～双葉みらいラボの様子～



## (2) 「未来創造探究」カリキュラム開発支援

### ○概要

カリキュラム開発では主に高1, 2年次に担当コーディネーターと伴走スタッフを配置し、先生と協働して授業設計、教材作成、生徒伴走、地域コーディネートなどに取り組んでいる。



以下、今年度の主な取り組みと成果を記載する。

### ○高1「オリエンテーション」授業の改善

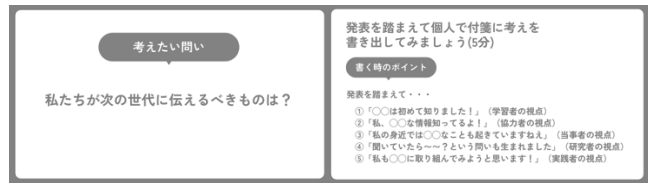
未来創造探究に取り組む意義を各生徒が語り、それが活動への動機づけになることを目指して、ジグソー法を活用した授業設計に変更をした。生徒と「ふたば未来学園で探究を大切にする理由」「探究的な学び方とは?」「卒業生が語る探究を進め方のコツ」の3つの視点を得た上で、「これから探究を進める際に大切にしたいこと」を言語化した。

### ○高1「教員協働の仕組み化」トライアル実践

近年、未来創造探究の指導体制として教員間の経験差による、背景や指導ノウハウの共有が課題になっていた。そこで今年度は高1で初めて探究の指導に入る教員に2ヶ月間程度「メンター教員」をつけ、週1程度メンターとメンティーでコミュニケーションを取り合うことに取り組んだ。体験したメンティーからは「探究学習の授業の最終ゴールが何なのか、どこにファシリテーションしていくべきなのか想像できるようになった」「生徒の状況をどう見たらいいのか、何を見たらいいのかやどういことを言ったらいいのか、働きかけたらいいのか、ということがわかった」などの感想が挙がった。

### ○高3研究成果発表会「対話交流部門」

昨年度から部門制が定着してきた発表会だが、今年度は「対話交流部門」の内容を大幅に見直した。分科会ごとに探究テーマを踏まえて「対話の問い」を設定し、発表生徒(高3)とそれ以外の生徒、参加している地域住民等が問題意識を共有したり、地域の状況を更に深掘りしたりする場となった。



### ○未来研究会でのワークショップ実施

11月7日の未来研究会では「ふたば未来学園のいまとみらい」というテーマでワールド・カフェを行った。来年度開校10年目を迎えるにあたって、開校からこれまでの写真(約200枚)を見て振り返り、次の目指すべき方向性を教員、カタリバスタッフで対話した。開校当初や旧校舎時代の写真を見て新着任教員が開校当初の雰囲気を変えて確認する場面も見受けられた。



## (3) 「探究研修センター」機能

### ○概要

探究学習をはじめとした取り組みのノウハウについて、県内外への波及を目的として単なる視察の受入に留まらず、「研修センター」機能の強化に取り組んでいる。今年度は文科省主催「新時代に対応した高等学校改革推進事業」対面研修や、WWLコンソーシアム構築支援事業における事業連携校教員研修を実施し、総計54校100名の教員・教育関係者に対して研修を行った。



～12/5 WWL 事業連携校教員研修の様子～